

「レジャー白書2010」に見る  
パチンコ・パチスロ産業

# あわや21兆円の大台割れ 6年連続ダウン、前年比3%減

公益財団法人日本生産性本部は7月30日、「レジャー白書2010」を発表した。09年は景気の低迷と新型インフルエンザの流行が重なる一方で、高速道路料金をはじめレジャー関係の価格低下の影響があり、利用客の出足そのものは節約志向の下で比較的堅調という種目や業界も少なくなかった。パチンコ・パチスロ産業については、大型店の増加、中小店との格差拡大が進む中で、低価格営業の普及など多様な営業形態が生まれつつあった。

余暇活動の参加人口

「外食」ついに  
1位から陥落

高速道路料金値下げの恩恵を受けて、「ドライブ」が初めて参加人口の首位になった。ほかに、「動物園・植物園・水族館・博物館」が9位から6位に、「ピクニック・ハイキング・野外散歩」が17位から13位に上昇するなど手軽な行楽系の伸びが目立ったが、支出や宿泊数の大幅な拡大にはつながらなかった。一方、不況や低価格化の影響で、長く1位を維持してきた「外食（日常的なものを除く）」が3位に、「バー・スナック・パブ・飲み屋」も11位から15位にそれぞれ落ちた。（表1）

余暇市場の動向

スポーツ自転車  
好調をキープ

09年の余暇市場は69兆5520億円と前年比4・3%の減で、89年（平成元年）以来の70兆円割れとなった。消費者の節約志向から多くの業界で客単価の減少傾向が

表1 ●余暇活動の参加人口ベスト10

2008			2009		
順位	余暇活動種目	万人	順位	余暇活動種目	万人
1	外食（日常的なものを除く）	7,370	1	ドライブ	6,740
2	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	6,020	2	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	6,390
3	ドライブ	5,140	3	外食（日常的なものを除く）	6,370
4	宝くじ	4,560	4	映画（テレビは除く）	5,260
5	パソコン（ゲーム、趣味、通信など）	4,470	5	音楽鑑賞（CD、レコード、テープ、FMなど）	5,150
6	カラオケ	4,430	6	動物園、植物園、水族館、博物館	5,040
7	ビデオの鑑賞（レンタルを含む）	4,400	7	ビデオの鑑賞（レンタルを含む）	5,010
8	映画（テレビは除く）	4,140	8	カラオケ	5,000
9	動物園、植物園、水族館、博物館	4,030	9	宝くじ	4,950
10	音楽鑑賞（CD、レコード、テープ、FMなど）	3,960	10	テレビゲーム（家庭での）	4,720
27	パチンコ・パチスロ	1,580	33	パチンコ・パチスロ	1,720

見られた。（表2）  
スポーツ部門では、ランニング

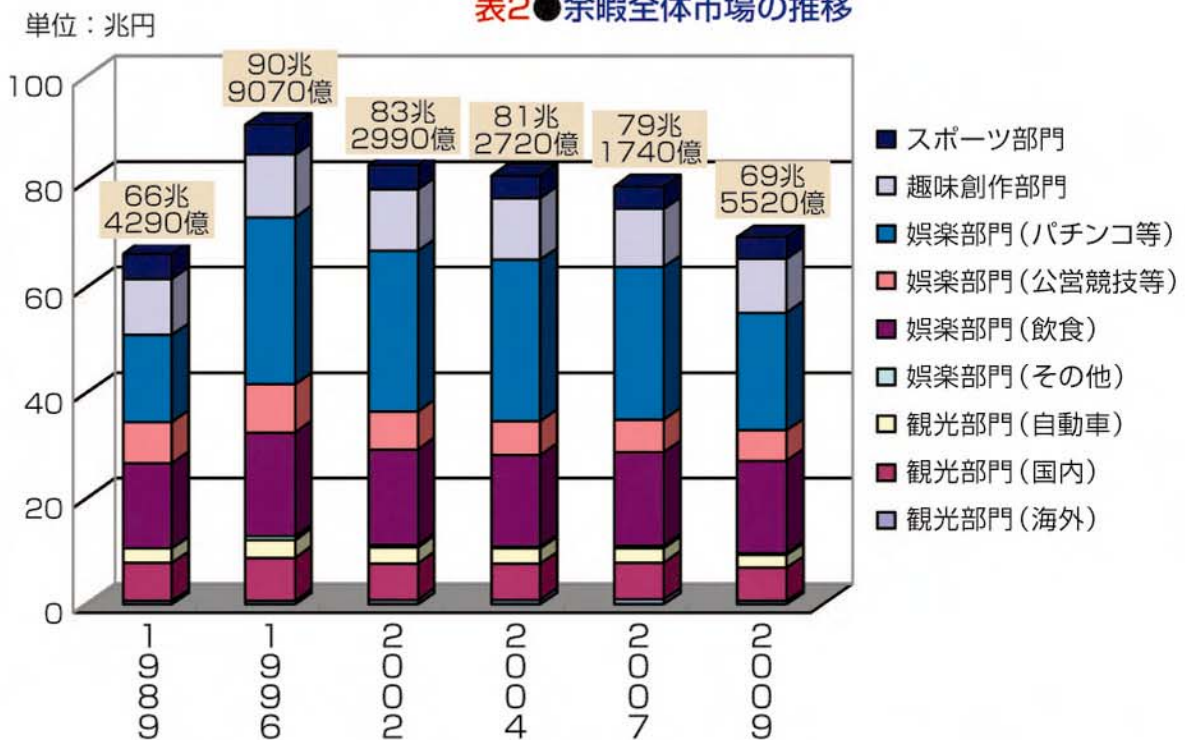


関連用品、スポーツ自転車がブームにより好調をキープした。ゴルフ用品の売上は前年比10・3%の減だった。プレーヤーは増えているがクラブの買い控えが顕著で、用品販売に結びついていなかった。ゴルフ練習場はプラス成長だったが、価格低下の激しいゴルフ場は売上減だった。フィットネスクラブは既存店の新規入会者数が減少を続け、退会者数を補えなかった。スポーツ観戦の売上は前年比7・4%増加した。内訳は、プロ野球入場者数は横ばいだったが、JリーグはJ2のチーム数が増えて試合数が急増し、大きく入場者数を増やした。ただし、1試合当たりの入場者数は減った。

## 書籍の落ち込み 10年で最悪

趣味・創作部門では、楽器、カメラ、ビデオカメラなどの趣味・創作用品、テレビ、ビデオソフト、CDなどの観賞レジャー用品がいずれも前年比マイナスだった。このうちテレビは大画面液晶テレビが販売台数を大きく伸ばしたが、

表2●余暇全体市場の推移



単価が大幅に下がったため売上げの伸びは抑えられた。書籍はベストセラー本が小粒だったため、販売部数がここ10年で最大の落ち込みを示した。そんな中において、

テレビゲームとゲームソフトの売り上げも前年比15%減少した。とくに据置型ハードの需要が概ね一巡し、販売台数が落ちた。携帯型ハードは堅調だが、伸びは緩やか

映画は中規模のヒット作が数多く出て、興行収入が前年比5・6%増加した。娯楽部門ではパチンコのほかに、公営ギャンブル、宝くじ市場も縮小が続いた。中央競馬の売り上げが前年比6・1%減だったのをはじめ、公営競技全体の売上げが前年比6%の減少で、18年連続の縮小となった。外食も既存店の落ち込みが激しかった。

になった。ゲームセンターの売り上げは13・4%減少し、2年連続して大幅な落ち込みとなった。ヒットゲーム機の人気の小粒なことから客離れがとまらない状況となっている。

## 3Dなど 新市場開拓

観光・行楽部門では、「遊園地・レジャーランド」が上半期の新型インフルエンザの影響で入場者数を減らした。旅行業も新型インフルエンザの影響を受け、取扱額は前年比2・8%減少。とくに海外旅行はマイナス4%と落ち込みが大きかった。とくに旅館の落ち込みは激しく、施設数の減少が続いており、客室数で旅館がホテルを下回った。(以上、表3)

このように既存市場の閉そく感が強まる一方で、電子書籍、3D映画、3Dテレビ、ブルーレイディスク、ハイブリッド車、電気自動車など技術革新による新市場開拓の試みが、09年から10年にかけて目立ってきた。



# パチンコ・パチスロの動向 多様な営業で中小生き残り

市場規模（パチンコ・パチスロの貸玉・貸メダル料金）は前年比3%減の21兆650億円となり、あわや21兆円の大台割れという状況だった。落ち込みは6年連続となった。ホール数は14年連続して減少した。遊技機設置台数では、パチンコ機は前年比2・7%増加したが、パチスロ機は7%の大幅な減少だった。パチスロ機は遊技機規則改正の経過措置が切れた07

年以降減少を続けていたが、10年に入ってやや持ち直す傾向が見える。1店舗当たりの遊技機設置台数は増加傾向にあり、店舗の大型化が進行している。

## 「低価」で 140万人増

参加率（1年に1回以上パチンコ・

## 「レジャー白書」とは：

国民の余暇意識及び余暇活動への参加実態を分析するため、1977年（昭和52）に創刊された。08年までは都市部に居住する15歳以上の男女3000サンプルを抽出し、訪問留置法によるアンケート調査を行なった。今回（09年）からインターネット調査に変更し、全国15～79歳の男女130万人のモニターから抽出して3110サンプルを有効回収した。調査時期は10年1月。



参加率（1年に1回以上パチンコ・パチスロをした人の割合）は1989年には30%近くあったものが減り続け、07年には13%台の低水準に落ち込んだ。08年に14%台と若干の回復を見せ、09年はさらに16・8%に上昇した。

推計参加人口は1720万人と、08年より140万人の増加となった。「手軽に安く遊べる」遊技環境整備や低価貸営業の普及が顧客増をもたらしていると思われる。とくに低価貸

営業のためか、年間平均費用は08年の12万2900円に対して09年は7万5000円と大幅に減った。年間平均活動回数も08年の29・6回に対して09年は20・4回に減った。（表4）

参加率を性・年代別に見ると、男性は全体で微増となった。中でも10代と60代以上が大きく増え、20代、30代の減少が目立った。女性は11・1%と02年以来的2ケタに乗せた。（表5）

## 「ライトファン」 だけが回復へ

ファン階層別人口の推移では、

年1～11回プレーするという「ライトファン」は1050万人で08年より440万人も増加した。「ライトファン」は96年当時の1480万人から08年まで落ち込み続けていたが、ようやく回復の兆しを見せた。しかし、月1～4回の「ミドルファン」は270万人減、年50回以上の「ヘビーファン」は30万人減となっており、楽観はできない状況だ。（表6）





### 表3●おもな余暇市場の推移

(単位：億円) (%)

調査年		1999	2000	2002	2004	2005	2006	2007	2008	2009	伸び率
スポーツ	ゴルフ用品	4,800	4,740	4,370	4,370	4,400	4,390	4,240	4,000	3,590	-10.3
	スキー・スノーボード用品	2,600	2,390	2,050	1,910	1,860	1,800	1,760	1,680	1,570	-6.5
	ゴルフ場	16,320	15,010	13,510	11,220	10,500	10,420	10,770	10,550	10,000	-5.2
	ボウリング場	1,200	1,170	1,170	1,070	1,040	1,020	1,010	910	830	-8.8
	フィットネスクラブ	2,990	3,650	3,580	3,800	4,020	4,270	4,220	4,160	4,090	-1.7
	スポーツ観戦料	1,210	1,230	1,280	1,360	1,340	1,340	1,390	1,350	1,450	7.4
趣味・創作	趣味・創作用品	14,870	16,580	16,860	16,200	15,050	14,870	15,070	14,510	14,090	-2.9
	鑑賞レジャー用品	37,500	37,450	37,370	38,010	35,880	35,300	33,320	33,940	31,370	-7.6
	学習レジャーサービス	11,650	10,920	10,620	10,670	9,780	9,790	9,910	9,710	9,200	-5.3
	映画	1,830	1,710	1,970	2,110	1,980	2,030	1,980	1,950	2,060	5.6
娯楽	パチンコ・パチスロ	284,690	286,970	292,250	294,860	287,490	274,550	229,800	217,160	210,650	-3.0
	ゲームセンター	5,730	5,520	5,600	5,960	6,260	6,580	6,780	5,950	5,150	-13.4
	テレビゲーム・ゲームソフト	6,040	6,230	5,010	4,360	4,970	6,800	7,110	6,580	5,590	-15.0
	中央競馬	36,570	34,350	31,330	29,310	28,950	28,230	27,590	27,570	25,900	-6.1
	宝くじ	9,120	9,500	10,920	10,740	11,050	10,940	10,440	10,420	9,880	-5.2
	外食	128,390	129,240	126,040	120,740	121,570	124,080	127,510	128,440	126,530	-1.5
	カラオケボックス(ルーム)	5,660	5,010	4,750	4,110	4,210	4,360	4,270	4,210	3,890	-7.6
観光・娯楽	遊園地・レジャーランド	4,840	4,730	6,590	6,320	6,300	6,480	6,430	6,400	6,230	-2.7
	国内航空	3,560	3,720	3,530	3,670	3,760	4,150	4,250	4,180	3,770	-9.8
	旅館	23,240	22,080	20,710	19,790	19,700	19,110	18,730	17,610	15,850	-10.0
	ホテル	10,000	10,250	10,180	10,230	10,410	10,720	10,930	10,380	9,760	-6.0
	旅行業(手数料収入)	7,410	7,540	6,830	6,700	6,920	7,070	7,250	6,850	6,660	-2.8
	海外旅行(国際線収入)	7,680	8,410	8,010	8,630	9,080	9,770	10,570	10,630	6,410	-39.7
余暇市場合計		855,540	850,850	832,290	812,720	801,220	791,740	745,950	726,860	695,520	-4.3

### 表4●パチンコ・パチスロの参加及び市場動向

調査年	1995	1997	2000	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
参加率(%)	27.4	21.6	18.6	19.8	15.9	16.3	15.5	15.0	13.1	14.3	16.8
年間平均活動回数	23.7	23.3	23.9	25.5	26.8	27.5	23.6	28.1	25.6	29.6	20.4
参加人口(万人)	2,900	2,310	2,020	2,170	1,740	1,790	1,710	1,660	1,450	1,580	1,720
ホール事業所数	18,244	17,773	16,988	16,504	16,076	15,617	15,165	14,674	13,585	12,937	12,652
パチンコ台数(万台)	405	388	342	325	323	308	296	293	295	308	316
パチスロ台数(万台)	70	88	132	161	166	189	194	200	164	145	135
1ホール当たり設置台数	260	268	279	294	304	318	323	336	338	350	356
市場規模(億円)	309,020	284,260	286,970	292,250	296,340	294,860	287,490	274,550	229,800	217,160	210,650
対前年伸び率(%)	1.4	-5.4	0.8	5.1	1.4	-0.5	-2.5	-4.5	-15.5	-5.5	-3.0



## 倒産は 大幅に減少

パチンコ機は「CR牙狼」の人氣が続き、「CR花の慶次」斬」などMAXタイプと呼ばれる射幸性の高い機種が注目を浴びた。中間的なミドルタイプでは定番機の続編モデルがやや低調だった。パチスロ機は「新世紀エヴァンゲリオン」約束の時」「ジャグラーシリーズ」などが安定し、夏季に登場した「パチスロ交響詩篇エウレカセブン」「緑ドン」が好稼働を示して、パチスロ稼働全体が上昇に転じたと見られる。全般的に低価格営業で稼働を確保し、MAXタイプで粗利益を確保する経営スタイルが主流となっていた。

低価格営業が普及して、1台当たりの売上げは減少した。とくに09年夏以降稼働率の低下が顕著になり、前年より1台約1000円のコスト営業で減収増益を図り、新台導入などの投資余力のあるホールも増えてきた。貸玉料金の多様化は従来の画一的な営業形態から

多様な営業形態を生み出し、中小ホールにも生き残りの活路を見いだせる余地ができたと思われる。支出抑制策として、遊技機の入替自粛、残業代カットや深夜労働の抑制による人件費の大幅削減、ユニホームやクリーニング代の低減などが行なわれた。設備投資も圧縮傾向にあった。倒産件数は大幅に減少した。

## 労働時間 減少しても 余暇をめぐる環境

総務省の「家計調査年報」を見ると、09年の勤労者世帯の実収入は対前年比実質1・3%の減、可処分所得も1・6%の減だった。急速なデフレの進行で物価は低下したが、それを上回る家計収入の減少が見られ、結果として家計にゆとりがなく、消費支出は名目・実質ともに減少の動きとなった。

一方、余暇時間環境の代表的な指標となる労働時間は、景気後退による生産減・残業規制もあって、所定内、所定外とも大幅に減少した。

表5●パチンコ・パチスロの性・年代別参加率の推移

(単位：%)

調査年	1989	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
全体	29.8	19.8	15.9	16.3	15.5	15.0	13.1	14.3	16.8
男性全体	43.8	30.2	24.4	24.8	23.3	22.8	19.6	22.0	22.9
10代(15-19歳)	34.8	14.8	6.0	9.6	13.0	9.0	3.7	4.3	11.4
20代	56.7	49.5	31.2	32.0	33.5	35.1	23.0	34.4	24.5
30代	53.8	40.6	35.0	29.8	28.4	28.6	30.3	30.6	27.5
40代	50.2	29.4	27.9	24.5	27.8	19.1	21.3	25.0	27.1
50代	38.0	28.0	23.8	31.4	25.9	29.1	23.4	23.4	22.9
60代以上	24.4	17.7	16.5	16.3	11.9	13.4	11.4	11.6	19.4
女性全体	15.6	10.1	7.9	8.3	8.2	7.6	6.9	7.0	11.1

出典：「レジャー白書」各年版

表6●パチンコ・パチスロのファン階層別人口の推移

(単位：万人)

調査年	1996	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
パチンコ・パチスロ人口	2760	2170	1740	1790	1710	1660	1450	1580	1720
ライトファン(年1~11回)	1480	990	800	780	790	700	650	610	1050
ミドルファン(月1~4回)	880	850	650	710	690	650	600	690	420
ヘビーファン(年50回以上)	400	330	290	300	230	310	200	280	250
年間平均活動回数(回/年)	23.8	25.5	26.8	27.5	23.5	28.1	25.6	29.6	20.4

出典：「レジャー白書」作成のための「余暇活動に関する調査」より作成